

講演スライドは、DropboxにアップしてURLを  
事務局から連絡してもらいます。必要な方はPDFデータをダウンロード下さい。

## 「アジア最後のフロンティアミャンマーの変化とビジネス展開」

黒岩 恵 (skuro@esd21.jp)

一般社団法人持続可能なモノづくり・人づくり支援協会 (ESD21) 会長

NPO法人「ものづくりAPS推進機構 (APSOM) 理事長

九州工業大学大学院情報工学研究院客員教授

### <講演概要>

2011年3月に新大統領就任以来、ミャンマーは劇的に変貌を遂げた。欧米の経済制裁が解除され、アジア最後のフロンティアとして日本企業の進出は、50社から今やその3倍にもなった。サービス業や縫製業、ODAやインフラ投資が始まり、徐々に製造、自動車産業の進出が検討されている。ESD21「ミャンマー調査研究会」では、日緬産業振興協力のため同国に関心ある企業間の情報共有の場を提供。本講演ではミャンマーの魅力と急速な変化、日本企業のビジネス展開の報告、併せて研究会の活動概要を紹介する。

### 1. 激変したミャンマー

日本のジャーナリストが軍関係者から銃殺された2007年に重機販売会社からの突然の電話。「自分の会社をトヨタの様な会社にしたい」との要請で翌年2月初に訪緬し、彼らの会社幹部にTPS/リーン方式の4日間ワークショップ。ESD21を創設後に、ミャンマーを経済振興協力国として以来、その国との付き合いが始まる。2011年3月にティンセイン大統領就任、8月のアウンサンスーチー氏との会談、12月のクリントン米国務長官の訪緬以来、国の歴史が大きく動いた。

### 2. ミャンマーの概況

1989年にビルマ (Burma) という馴染みある国名からミャンマー (Myanmar) に変更。日本の1.6倍の国土に人口はタイとほぼ同じ6200万人。ビルマ族70%、シャン族、カチン族はじめ135の民族でなる多民族国家。7地域7州からなり、宗教は90%弱が仏教。年齢別では、若年層の多いピラミッド型で識字率は高く、少子高齢化の日本に比して大いに期待できる国。ビルマという国は自分自身にとって、インドの「インパール作成」やタイの「戦場にかける橋」そして「ビルマの豎琴」を想起させる。中韓と異なり、インドネシア、ベトナムなどのASEAN各国の中で、欧米の列強を開放して独立支援してくれた国として、日本はASEAN域内で一番の尊敬されている国ではなかろうか。

### 3. 政治・経済社会の概要

ミャンマーは、1948年ビルマ連邦として独立するも、1962年の軍事クーデター以来、いわば鎖国状態を続ける。50年前は近隣国に比べて、格上のビルマがASEAN各国の中で時計が止まった様に取り残される。その国が民政移管され、勤勉でよく働く上に、人件費は中国の5分の1程度。一人当たりのGDP（国内総生産）は中国やタイの7分の1程度と、一人当たりGDPは域内で最低の水準である。GDP成長率は2012年で6%であるが、一人当たりは870ドル、ヤンゴン都市部では2000ドルと言われる。これらが「アジア最後のフロンティア」として「消費地」と「製造拠点」の両面で注目される。電力などの社会インフラの整備はこれからであるが、日本を好ましく思っている優秀な人材を低コストで大量に確保できる点など、これから発展していくミャンマーが、閉塞感ある日本の企業にとって、重要な国になっていくことは間違いない。

### 4. 経済活動（インフラ投資と外資進出）

外資の進出には、法制面の整備、金融市場、インフラ（電力、通信、上下水、輸送網）整備、土地の確保など課題が多い。日本が関与するティラワの開業（2015年）やダウェイ、加えて中国のチャオピュー、インドのシットウエーなどのSEZ（経済特区：工業団地）の開発が今後すすめられる。今年5月、安倍首相の訪緬中に首都ネピドーでティンセイン大統領と会談。約5千億円の延滞債務をすべて解消、910億円の政府ODAを今年度内に供与を表明。製造業では縫製業は早くから進出。欧米の経済制裁の間に、中国が我が物顔で進出し、すでに中国・昆明を繋ぐ約800Kmの石油・天然ガスパイプラインを完成、インド洋と中国内陸部を結ぶ物流拠点となるであろう。ここでは、特徴ある外資進出の事例を紹介する。

### 5. 自動車関連産業

自動車産業の発展過程は三段階あり、最初は自転車、次は一人当たりGDPが千ドルを超えると二輪、そして3千ドルを超えると自動車へ移行する、と言われる。2016年にはGDPは1200ドルと予想され、ヤンゴンでは禁止の二輪車が地方では増加。自動車は現在の保有台数は40万台。政府の2011年9月の車両代替計画（廃車証明書発行）以降、11万台以上の中古車が昨年未まで輸入。30年以上の古い車（1980年以前）が7万台程度廃車された。昨年5月まで、政府は輸入許可書の発行を段階的に実施。中古のクラウンやランクルが2千万前後で売られていたが、昨年後半には価格は落ち着いき、中国車のタクシーも増えてきた。

### 7. ESD21のミャンマー調査研究会

ESD21では、発足以来、ミャンマーと関係を持ち、ESD21としての訪問は6回。昨年5月にミャンマー調査研究会（ESD21M研）を立ち上げ、約100名の研究会メンバーで、すでにミャンマーに進出した企業様5社含めた情報交換会、ミャンマー訪問交流を開催。ご関心ある皆様にはぜひ、ESD21「ミャンマー調査研究会」に参加ください。（以上）